

# Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS

リリース・ノート補足

リリース 8.1.7

2001 年 4 月

**部品番号: J03442-01**

**ORACLE®**

Copyright © 2001, Oracle Corporation  
All Right Reserved

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Net8、Oracle8i、Oracle Database Configuration Assistant、Oracle *interMedia*、Oracle *interMediaText*、Oracle Names、PL/SQL、Pro\*C/C++、Pro\*COBOL、SQL\*Forms、SQL\*Loader および SQL\*Plus は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

---

# 目次

はじめに.....	4
マニュアルに記載されている名称について .....	4
英語オンライン・ドキュメントの扱いについて .....	4
Oracle JServer の名称について .....	4
最新情報の入手について .....	5
サポートされない製品コンポーネント .....	6
日本語環境での使用上の注意 .....	7
README ファイルについて .....	7
インストール関連事項と確認されている制約事項 .....	8
オペレーティング・システムのバージョン .....	9
オペレーティング・システムおよびレイヤード・プロダクトの必須パッチ .....	9
新しいORA_ROOT とログイン・セッション .....	10
データ・ファイル・サイズの制限.....	10
プリコンパイラについて .....	10
マルチ CD-ROM.....	11
Oracle Universal Installer : 確認されている問題と解決方法.....	11
リスナーの問題 .....	11
Recovery Manager の制限 .....	11
OGMS (Oracle Group Membership Services) の廃止.....	12
Oracle8 からのアップグレードについて.....	13
チェック手順.....	13
その他の既知の問題 .....	14
デット接続の検出について .....	14
Net8 について .....	14
Oracle Parallel Server について .....	14
ORA_NETWORK:BEQLSNR.COM ファイルの設定 .....	14
SYSGEN パラメータの設定 .....	15
クイック・スタート・ガイド .....	16

システム構成.....	16
Oracle データベース管理者アカウントの作成.....	16
新しい ORA_ROOT ディレクトリの作成 .....	18
CD-ROM のマウント.....	18
インストーラの実行.....	18
ORACLEINS を使用する場合.....	18
Oracle Universal Installer を使用する場合.....	18
『Oracle8i Installation Guide Release 3(8.1.7) for Alpha OpenVMS』の訂正 .....	20
マルチ CD-ROM.....	20
マクロアセンブラ.....	20

---

## はじめに

- ※ 米国ではホームページ、ホワイトペーパー等で Oracle8i Release 3 と呼ばれていますが、国内ではこれまでの呼び方との整合性を保つため、「Release 3」とは呼ばずに、「リリース 8.1.7」あるいは「R8.1.7」と呼びます。
- ※ 本リリース・ノート補足は、Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 を使用するにあたっての注意事項について解説しています。『Oracle8i Release Notes Release 3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』、『Oracle8i Installation Guide Release 3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』とあわせてご利用ください。

## マニュアルに記載されている名称について

Oracle8i 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

## 英語オンライン・ドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

## Oracle JServer の名称について

リリース 8.1.7 より Oracle JServer の名称が「Oracle8i JVM」に変更になりました。Oracle8i 関連マニュアルおよび CD-ROM 製品で Oracle JServer の名称が混在して表示される場合がありますが同じ製品を示しておりますので、注意してください。

## 最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

---

## サポートされない製品コンポーネント

次に記載する製品コンポーネントは、このプラットフォームでは CD-ROM に含まれないか、日本ではサポートされません。Oracle8i Enterprise Edition と同時に Program がインストールされる場合がありますが、日本ではサポートされません。

- Oracle Visual Information Retrieval
- Oracle HTTP Server
- Oracle Time Series
- Oracle Spatial
- Oracle Generic Connectivity
- Oracle Migration Workbench
- SQL\*Module Ada
- Oracle Diagnostic Pack Advanced Events
- Oracle Management Pack for SAP R/3 Advanced Events
- Oracle Management Pack for Oracle Applications Quick Tour
- Oracle Applications InterConnect
- Oracle XML Developer's kit for C/C++
- Oracle Workflow

---

## 日本語環境での使用上の注意

ここでは、次の項目について説明します。

- README ファイルについて
- インストール関連事項と確認されている制約事項
- その他の既知の問題
- クイック・スタート・ガイド

### README ファイルについて

インストールする前に、製品 CD-ROM に収録されているセーブ・セットから、README\* ファイルを取り出してください。

たとえば、RDBMS.BCK セーブ・セットから README\* ファイルを取り出すには、次の手順に従ってください。

1. 製品 CD-ROM をマウントします。

```
$ MOUNT/OVERRIDE=IDENTIFICATION <ddcn>:
```

<ddcn>は、有効な CD-ROM デバイスです。

2. README\* ファイルを取り出します。

```
$ BACKUP/SELECT=README*. * -<  
ddcn>: [SERVER]RDBMS.BCK/SAV [<dir>]
```

<dir>は、有効なディレクトリを選択してください。

Oracle8i をインストールする場合は、適切なセーブ・セット名を指定してこの手順を実行し、事前に README\* ファイルを参照してください。

## インストール関連事項と確認されている制約事項

Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 には、2 つのインストール・プログラムが付属します。1 つは、従来型の文字を使ったメニューによるインストーラ（ORACLEINS）です。もう 1 つは、このリリースで新しく付属した、Java/GUI ベースのインストーラ Oracle Universal Installer（OUI）です。

ここでは、次の項目について説明します。

- オペレーティング・システムのバージョン
- オペレーティング・システムおよびレイヤード・プロダクトの必須パッチ
- 新しい ORA\_ROOT とログイン・セッション
- データ・ファイル・サイズの制限
- プリコンパイラについて
- マルチ CD-ROM
- Oracle Universal Installer：確認されている問題と解決方法
- リスナーの問題
- Recovery Manager の制限
- OGMS（Oracle Group Membership Services）の廃止
- Oracle8 からのアップグレードについて



## オペレーティング・システムのバージョン

Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 は OpenVMS Alpha バージョン 7.2-1 と 7.2-1H1 のみをサポートします。

## オペレーティング・システムおよびレイヤード・プロダクトの必須パッチ

Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 をインストールする前に、必ずパッチがインストールされていることをご確認ください。

- お使いのオペレーティング・システムのバージョンにあわせて、次のいずれかのパッチが必要です。

Compaq OpenVMS Alpha 7.2-1 をご利用の場合

- VMS721\_ACRTL-V0200 以上
- VMS721\_SYS-V0900 以上

なお、VMS721\_ACRTL-V0200 および VMS721\_SYS-V0900 を新たにインストールする場合は、事前に VMS721\_PCSI-V0100 と VMS721\_UPDATE-V0100 も必要です。

Compaq OpenVMS Alpha 7.2-1H1 をご利用の場合

- VMS721H1\_UPDATE-V0300 以上
- VMS721H1\_ACRTL-V0100 以上

- お使いの DIGITAL TCP/IP Services にあわせて、次のいずれかのパッチが必要です。

日本語 DIGITAL TCP/IP Services for OpenVMS Alpha 5.0A をご利用の場合

- ECO1 ( : DEC-AXPVMS-TCPIPJA\_ECO-V0500-111-4.PCSI) 以上

DIGITAL TCP/IP Services/Japanese for OpenVMS Alpha 5.0A をご利用の場合

- ECO1 ( : DEC-AXPVMS-TCPIP\_ECO-V0500-111-4.PCSI) 以上

以上のパッチの最新情報については、コンパックコンピュータ株式会社にお問い合わせください。今後 OpenVMS Alpha 7.3 や Compaq TCP/IP Services 5.1 で、この問題は修正されます。

## 新しいORA\_ROOT とログイン・セッション

Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 製品は、新しいORA\_ROOT (OUI では、このディレクトリは ORACLE\_HOME となります) にインストールしてください。

既に Oracle 製品がインストールされている ORA\_ROOT ディレクトリには、Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 をインストールしないでください。

以前のリリースで、Oracle 製品を指すログイン・セッションが既に存在する場合は、新しいインストール作業で論理名やシンボルを繰り返して使用してしまわないように、必ずこのセッションからログアウトしてください。また、Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 のインストールに使用するアカウントの LOGIN.COM が、Oracle 論理名やシンボルを定義していないこと、およびこれらを定義するコマンドファイルを実行しないことを確認してください。メールボックスデバイスや共有ライブラリに関連するものを除いて、Oracle 固有の汎用論理名（一般的には ORA\_ で始まる論理名）が、システム・テーブルで定義されていないことも確認してください。このような設定になっていないと、Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 を正しくインストールおよび実行できない可能性があります。

## データ・ファイル・サイズの制限

データ・ファイルのサイズは最大 4GB (4095MB) です。ご注意ください。

## プリコンパイラについて

Pro\*C は、Compaq C for OpenVMS Alpha バージョン 6.2 をサポートします。

## マルチ CD-ROM

このリリースより、インストール・メディアは2枚のCD-ROMで提供されます。また、日本語環境では必須製品のNLSは2枚目のCD-ROMに格納されます。OUIでインストールする場合、CD-ROMの内容をすべてディスクにコピーしてからOUIを実行してください。

CD #1 の最上位の階層には、次の3つのディレクトリがあります。

- [SERVER]
- [OUI]
- [DOC]

[SERVER]、[OUI]、[DOC]（必要に応じて）の各ディレクトリをハードディスク・ドライブへ同じ階層でコピーします。次に、CD #2 の [SERVER] ディレクトリの内容（CD #2 には [SERVER] のみ存在します）を、CD #1 の [SERVER] ディレクトリのデータを含む [SERVER] ディレクトリへコピーします。これ以降の手順については、『Oracle8i Installation Guide Release 3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』を参照し、CD デバイスのかわりにハードディスクのコピー先をインストール元に指定してください。

## Oracle Universal Installer : 確認されている問題と解決方法

- コンピュータが低速な場合、Oracle Universal Installer で画面のロード中に「ちらつき」が発生することがあります。これは、インストールに影響ありません。
- Oracle Universal Installer の「Inventory」ウィンドウから起動される「Help」ウィンドウは、2 回目にアクセスしたときにスクロールやサイズ変更ができなくなります。これを解決するには、「Inventory」ウィンドウを閉じます。これで、「Help」ウィンドウにアクセスできるようになります。「Help」ウィンドウをサイズ変更した後閉じます。「Inventory」ウィンドウから次に「Help」ウィンドウを起動すると、ウィンドウはサイズ変更した後の大きさで表示されます。これは、Java Runtime Environment (JRE) 1.1.8 が原因の不具合です。

## リスナーの問題

リスナーを再起動する場合、停止後しばらく時間をおいてから起動してください。

## Recovery Manager の制限

日本国内では、サポートされる MML (Media Management Library : Tape I/F) がありません。Recovery Manager では、ディスク装置からディスク装置への RMAN 操作のみ実行可能です。

## OGMS (Oracle Group Membership Services) の廃止

OGMS は、Oracle8i からは必要ありません。『Oracle Parallel Server Addendum Release 3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』に OGMS の記述がありますが、無視してください。OGMS はインストールしないでください。

ORACLEINS ユーティリティ (インストーラ) を使用してインストールする場合、PSOPT Configuration Options (Oracle Parallel Server Option) 画面で、OGMS (Oracle Group Membership Services) を選択しないでください (標準表示は [N] です)。

次に画面例を示します。

PSOPT Configuration Options	
Option	Current Value
1. System or Group installation? [S/G]	S
2. Install Oracle Group Membership Services? [Y/N]	N
3. Directory for OGMS install?	SY\$COMMON:[SYSEXE]
4. Override previous OGMS installation? [Y/N]	N
5. Parallel Server Interprocess Communication package (TCP)?	TCP

Enter (A)LL to select all options.  
Enter (E)XIT to exit this menu with selected options.  
Enter (Q)UIT to quit this menu with no action.

Enter the number of the option that you want to change:

OUI を使用してインストールする場合も、「Oracle Parallel Server Option」画面で、OGMS を選択しないでください。

次に画面例を示します。

Oracle Parallel Server Option	
Install Oracle Group Membership Services ?	
<input type="radio"/>	YES
<input type="radio"/>	NO ← こちらを選択

## Oracle8 からのアップグレードについて

データベースに移行ユーティリティを用いて Oracle8 からアップグレードを行う場合、事前に移行対象の Oracle8 データベースのチェックを行う必要があります。

Oracle8 データベース稼働中に、次の手順に従ってチェックを行ってください。

### チェック手順

1. オブジェクトを分析するための SQL を作成します。

次の内容のファイルを作成し、make\_analyze.sql という名前で保存してください。

```
set head off feedback off pagesize 500 echo off
spool analyze_objects.sql
select 'ANALYZE TABLE "'||owner||'".'||table_name||
'" VALIDATE STRUCTURE CASCADE;'
from dba_tables
where tablespace name='SYSTEM';
select 'ANALYZE CLUSTER "'||owner||'".'||cluster_name||
'" VALIDATE STRUCTURE CASCADE;'
from dba_clusters
where tablespace_name='SYSTEM';
spool off
```

2. SQL\*Plus や Server Manager から SYS として接続し、次を入力してください。

```
SQL> @make_analyze.sql
```

analyze\_objects.sql というファイルが生成されます。

3. analyze\_objects.sql を編集して、ANALYZE コマンド以外のものを全て削除してください。
4. データベースを abort オプション以外で停止してください。
5. データベースを startup restrict で起動します。

ただし、作業を行うセッション以外でデータベースに接続していないかどうかを確認してください。また、起動は 1 インスタンスのみであり、複数のインスタンスが存在しないようにしてください。

6. SQL\*Plus や Server Manager から SYS として接続し、次を入力してください。

```
SQL> @analyze_objects.sql
```

7. エラーが無ければ、移行作業に進んでください。

エラーが発生した場合、移行を行う前に保守契約先のサポート・ベンダーに連絡してください。

ANALYZE がいずれかの表および索引またはクラスタでエラーを返す場合は、移行作業を続けることができませんので、ご注意ください。

## その他の既知の問題

### デッド接続の検出について

デッド接続の検出を有効にしている場合、接続中に ORA-01013 により切断されることがあります。

デッド接続の検出は、`sqlnet.ora` ファイル内の記述で、`SQLNET.EXPIRE_TIME` プロファイル・パラメータに「0」より大きな数字を設定する場合に有効になります。

```
例：SQLNET.EXPIRE_TIME=10
```

当キットに含まれておりませんが、この Net8 の不具合に対する修正は、パッチが既に作成されています。パッチの入手に関しては、保守契約先のサポートベンダーにご連絡ください。

### Net8 について

Net8 をポート 1521 でお使いの場合、`ORA_DB:<node>_<sid>_INIT.ORA` に次の設定を追加してください。

```
instance_name = <sid>
service_names = <sid>
local_listener = "(address=(protocol=tcp) (host=<node>
name>) (port=1521))"
```

### Oracle Parallel Server について

#### ORA\_NETWORK:BEQLSNR.COM ファイルの設定

ORA\_NETWORK:BEQLSNR.COM を次の値に変更してください。

```
$ define ORA_LSNR_ENQLM 2000 (初期設定: 200)
$ define ORA_LSNR_BYTLM 409600 (初期設定: 150000)
```

1 データファイルにつき、1024 バイト必要です。この例は 400 データファイルの場合です。

## SYSGEN パラメータの設定

SYSGEN パラメータを以下の値に設定してください。バックグラウンドプロセスが異常終了する場合があります。

PQL_MPGFLQUOTA	15000000 (初期設定: 32768)
PQL_MENQLM	32000 (初期設定: 300)

この変更にあわせて、Oracle DBA アカウントの BYTLM、ENQLM、PGFLQUO も変更してください。詳細については、次頁の「クイック・スタート・ガイド」で例を記載します。

---

# クイック・スタート・ガイド

ここでは、Oracle8i Enterprise Edition for Alpha OpenVMS リリース 8.1.7 の簡単なインストール手順の例を紹介します。

## システム構成

次の容量を満たす、Alpha System を用意してください。

- 128MB 以上の物理メモリ
- ディスク装置に 1GB 以上の空き領域

## Oracle データベース管理者アカウントの作成

### 1. MAXSYSGROUP の確認

作成するアカウントの名前は、SYS や SYSTEM 以外にしてください。また UID は MAXSYSGROUP より大きい値に設定してください。

MAXSYSGROUP は、次のコマンドで確認できます。

```
$ WRITE SYS$OUTPUT F$GETSYI("MAXSYSGROUP")
```

または、

```
$ MCR SYSGEN SHOW MAXSYSGROUP
```

### 2. AUTHORIZE ユーティリティの実行

ユーザー・アカウントを追加します。

```
$ SET DEFAULT SYS$SYSTEM
$ RUN AUTHORIZE
UAF> ADD oracle8i/PASSWORD=oracle/UIC=[277, 100] -
_UAF> /DEVICE=<device>/DIRECTORY=[oracle8i]/OWNER="ORACLE DBA"
UAF> MODIFY oracle8i /FLAGS=NODISUSER
```

### 3. アカウント特権の設定

```
UAF> MODIFY oracle8i -
_UAF> /PRIVILEGE=(CMKRNL, IMPERSONATE , LOG_IO, NETMBX, PFNMAP, -
_UAF> PRMGBL, PRMMBX, SYSGBL, SYSLOCK, SYSNAM, SYSPRV, TMPMBX, -
_UAF> WORLD) -
_UAF> /DEFPRIVILEGE=(CMKRNL, IMPERSONATE , LOG_IO, NETMBX, -
_UAF> PFNMAP, -
_UAF> PRMGBL, PRMMBX, SYSGBL, SYSLOCK, SYSNAM, SYSPRV, TMPMBX, -
_UAF> WORLD)
```



#### 4. アカウント・クォータの設定

たとえば、次のように設定します。

```
UAF> MODIFY oracle8i /FILLM=100/JTQUOTA=8192
```

最低限の設定値は、『Oracle8i Installation Guide Release 3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』の 1-17 ページに記載されています。

ただし、BYTLM (バイト・リミット) の記載通りに設定すると不足します。また、OUI からインストールする場合、PGFLQUO (ページファイル・クォータ) が不足します。次の画面例を参考に、各値の設定を変更してください。

Username:	ORA817	Owner:	ORACLE DBA
Account:		UIC:	[336,1] ([ORA817])
CLI:	DCL	Tables:	DCLTABLES
Default:	DISK\$DBHOME:[ORA817]		
LGICMD:			
Flags:			
Primary days:	Mon Tue Wed Thu Fri		
Secondary days:		Sat Sun	
No access restrictions			
Expiration:	(none)	Pwdminimum:	6
Pwdlifetime:	90 00:00	Login Fails:	0
Last Login:	9-MAR-2001 15:16 (interactive),	Pwdchange:	5-MAR-2001 15:13
			7-MAR-2001 16:58 (non-interactive)
Maxjobs	0	Fillm:	100
Maxacctjobs	0	Bytlm:	2000000
Maxdetach	0	Shrfillm:	0
Prclm	8	BIolm:	150
Prio	4	DIolm:	150
Queprio	4	WSdef:	8192
CPU:	(none)	WSqto:	4000
		WSextent:	409600
		Pgflquo:	1500000
Enqlm:	32000		
Authorized Privileges:			
CMKRNL	IMPERSONATE	LOG_IO	NETMBX
PRMMBX	SYSGBL	SYSLCK	PFNMAP
WORLD			PRMGBL
Default Privileges:			
CMKRNL	IMPERSONATE	LOG_IO	NETMBX
PRMMBX	SYSGBL	SYSLCK	PFNMAP
WORLD			PRMGBL
Identifier		Value	Attributes
ORA_DBA		%X80010004	
ORA_AGENT_ID		%X80010008	

なお、デフォルト値はそれぞれのシステムの「DEFAULT」ユーザーの設定によって異なります。アカウントの作成はそれぞれのシステム管理者にお問い合わせください。

## 5. 識別子の設定

Oracle データベース管理者アカウントのために、次を設定します。

```
UAF> ADD /IDENTIFIER ORA_DBA
UAF> GRANT /IDENTIFIER ORA_DBA oracle8i
```

SGA 保護のために、次を設定します。

```
UAF> ADD / IDENTIFIER /ATTRIBUTES=SUBSYSTEM ORA_SGA
```

(GRANT/IDENTIFIER は不要です)

Oracle Intelligent Agent のために、次を設定します。

```
UAF> ADD /IDENTIFIER ORA_AGENT_ID
UAF> GRANT /IDENTIFIER ORA_AGENT_ID oracle8i
```

## 新しい ORA\_ROOT ディレクトリの作成

```
$ CREATE /DIRECTORY /OWNER=[oracle8i] <disk_device>:[oracle8i]
```

## CD-ROM のマウント

Oracle データベース管理者アカウント（この例では、oracle8i）でログインします。

```
$ MOUNT /OVERRIDE=IDENTIFICATION <cd_device>
```

## インストーラの実行

### ORACLEINS を使用する場合

```
$ BACKUP /LOG <cd_device>:[SERVER]BOOT.BCK /SAVE_SET -
_$ [] /NEW_VERSION /BY_OWNER=PARENT
_$ @ORACLEINS
```

ORACLEINS は、インストール終了後、ORACLE\_HOME:[INSTALL]に作成されます。

### Oracle Universal Installer を使用する場合

```
$ CREATE /DIRECTORY /PROTECTION=(O:RWED) [ .ORAINVENTORY]
```

これを実行しないと、OUI の実行中に ORAINVENTORY.DIR の PROTECTION を変更するように指示されます。

```
$ @< disk_device >:[OUI]OUI
```

OUI を起動すると、ORACLE\_HOME の位置を尋ねてきます。次のように UNIX 調で記述してください。「:」や「[ ]」は使用できません。

```
/< disk_device >/oracle8i/
```

続いて、ORAINVENTORY の位置を尋ねてきますので、先に作成したディレクトリを、UNIX 調で記述します。

---

# 『Oracle8i Installation Guide Release3 (8.1.7) for Alpha OpenVMS』の訂正

## マルチ CD-ROM

OUI でインストールする場合、ディスクへのコピーを行わずにインストールする方法を記載していますが、メディア交換ができないため、必ずディスクへコピーしてからインストールを実施してください。

## マクロアセンブラ

「マクロアセンブラのインストールが必須」と記述がありますが、通常 OpenVMS には標準で組み込まれています。システム管理者にお問い合わせいただき、明示的に削除していないことを確認してください。